

平成28年度第1回海外姉妹都市検討市民会議作業部会（平成28年7月28日開催）
■ 交流事業及び候補地について

交流事業及び候補地について意見交換を行い、「フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、他に候補地ができるものがあれば並行して議論して行く」ことが、挙手全員で一致した。

1. 交流事業及び候補地について

（交流事業についての主な意見）

- ・国際グローバル化の中で、青少年の健全育成についての意見が多く出ているため、それを踏まえながら交流事業を絞り込むと良い。
- ・交流事業の対象についても、まだ他にもあるのではないか。
- ・意見としては教育交流の分野が最も多くなっている。他の交流については、提携した後に、そこから色々生まれてくると思う。
- ・昨年の議論で出ている交流事業の内容は、非常に一般的で、若い人が大事で、若い人が英語を勉強するために、世界に目を向けるような場を作りたいという、誰もが納得するような議論が進んでいるが、もう少しプロフェッショナルな、例えばエネルギーを効率的に使っている等、稲城市が将来目指す方向に何かモデルとなることを求めて、姉妹都市を探していくというような積極的な考え方も大事である。

(候補地についての主な意見)

- ・英語圏が良いという意見が多かったので、その辺を踏まえながら絞り込んでいくと良い。
- ・資料5『稲城市の海外交流実績及び各都市の概要等』(以下、「資料5」という)のリストから、少しずつ絞っていくという考え方もある。
- ・フォスターシティ市は、稲城市との姉妹都市提携を向うから希望しているので、そのフォスターシティ市とどういう交流ができるかを議論するのが現実的である。
- ・フォスターシティ市と比較ができるような都市や、フォスターシティ市より優れた都市があるのであれば、検討の余地があるが、フォスターシティ市が稲城市との提携を希望している現状の中では、稲城市としてどう対応していくのかということのも、決めなければならない問題である。
- ・資料5のリスト自体が、本当に候補地を検討するベースのリストになるのかという疑問がある。
- ・稲城県については、向うの状況で、姉妹都市にはあまり積極的ではないというところである。
- ・友人学園とはかなり活発に交流していたが、東日本大震災の関係で、原発等のこともあり、向こうから一方的に連絡を途絶えてきたということである。
- ・相手の行政に姉妹都市提携の意思があるかないかというのがポイントで、意思がないものをいくら議論しても、全く無駄である。

(その他の主な意見)

- ・実際に提携した後の交流の実施体制・組織についても、提携を決める前に考えていた方が良い。

2. 委員からの調査実施の提案について

委員から調査の実施に関する提案があり、その提案について意見交換を行った。

【調査提案①】

- ・海外姉妹都市を結んでいる都市は、約1000都市くらいあるので、その実態がどうなのか、どういったところが上手く行って、どのような状況なのかを、委員各人が一カ所くらい調べてもらったらどうか。
- ・稲城市民の外国人に対する実態調査やアンケートを実施したらどうか。
- ・実際に提携した後の交流の実施体制・組織についても、提携を決める前に考えていた方がよい。

(主な意見)

- ・今まで検討した内容では情報が少ないのではないかと思う。この検討をしないと、上っ面だけの話になってしまうのではないか。
- ・昨年度4回の市民会議で、かなりの部分でこの調査まではいかないが、委員の意見としてはかなりの部分がまとまってきていると思う。

【調査提案②】

『稲城市民が持つ海外ネットワーク』についての調査について提案があった。

[調査対象]稲城国際交流の会、ICカレッジ等

※最初は小さいスケールで実施し、興味深いデータが得られれば、調査対象を拡大(稲城市海外姉妹都市検討市民会議に参加している各種団体等)し、発展させていく。

(主な意見)

- ・市民の参加による姉妹都市を結ぶことを基本とすると、もう少し市民の実際の状況を調べた方がよい。
- ・提案する方は、調査結果で「候補地はこうなりますが、どうですか」という具体的な形まで作り、それをフォスターシティ市とぶつけてもらわないと、議論にならない。

- ・調査の話はすごくいいと思うが、これから実施するとなると、この1年の中で結論まで持っていけるのか疑問がある。
- ・作業部会では具体的な議論をしたいので、フォスターシティ市の方向でもっと話をしていきたいと思うが、一方では、海外ネットワークというものを、知りたいというのも確かにあるが、実施についての判断については分からない。
- ・次の段階の姉妹都市を選ぶ部分では、この調査は必要になるのではないかと感じる。
- ・フォスターシティ市の検討と並行して、提案した調査を含めて、少なくとも二本立てで進んで行くのが良い。現状では、他の可能性の検討を全部やめて、「フォスターシティ市にしましょう」というのは、今までの流れではないと思う。

※調査の実施に関する判断が部会の中で決しなかったことから、平成28年8月2日に部会長と提案者、事務局にて打合せをし、第2回の作業部会で結果報告できるよう整理した。

【整理内容】

- ・稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会として調査を実施。
- ・調査対象は稲城国際交流の会の会員、いなぎICカレッジの市民ボランティア理事及び市民ボランティア講師とする。

3. 今後の検討について

今回の作業部会の結論として、今後は「フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、他に候補地にできるものがあれば並行して議論して行く」ことを、委員の挙手により意見の確認を行った。

【結果】委員7人の挙手全員で「フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、他に候補地にできるものがあれば並行して議論して行く」ことで一致した。

4. 行政への要望や質問について

検討の中で、行政に対する要望及び質問をいただいた。

【要望】

- ・フォスターシティ市と姉妹都市を結ぶと言った時に、行政はフォスターシティ市と直接にコミュニケーションを取るようにすべきである。
- ・役所の中で誰か一人、きちんと相手先と直接コミュニケーションをとれるスタッフを置くべきである。
- ・稲城市の検討状況をフォスターシティ市に伝えた上で、フォスターシティ市が現在どういう考えで、稲城市とどのような交流がしたいのかを聞いてもらいたい。

【質問】

- ・フォスターシティ市について詳しく教えてほしい。

→〔回答〕平成27年8月5日～9日（現地一日半）に稲城市が訪問した際に見聞きした情報を口頭で説明。

■フォスターシティ市の概要について

- ・人口は3万人程度。
- ・サンフランシスコの内海を埋め立てて造った人工都市。
- ・街の中心にはラグーンという、人口の湖があり、サンフランシスコの湾から水を引いて、常に一定の水量を保っている。
- ・ラグーンでは、カヤック等の色々なスポーツができる。
- ・ダフィーボート(数人乗りの電動ボート)を使って、ラグーンの中を移動して、買い物に行ったりすることができる。
- ・長崎県のハウステンボスには人口の運河で作った別荘地があり、そのイメージにかなり近い。
- ・ラグーン沿いの高級な住宅地と、そうではない普通の住宅地が混在
- ・ビザの本社や、タミフルで有名なギリヤードの本社などがあり、6,000人から7,000人の雇用を生んでいる。
- ・人工で作った郊外型の綺麗な都市ということで、稲城市が市制となったときと同じ年に新しくできた都市である。
- ・ダウンタウンや繁華街というところはなく、非常に安全なまちで、全米でもベスト8に選ばれたくらい安全な町。
- ・わずか10キロ平米の市の面積の中に公園が20カ所以上もある。
- ・一番大きい公園の中には、野球場が9つあり、年齢別の野球場(8歳の球場が一番小さく、その次が、11から12歳、次が13から14歳、14から15歳、16歳以上という形)で、球場自体も年齢に応じて大きさが全部異なり、それぞれスタンドやブルペンまで用意されている。
- ・男の子は野球をやり、女の子はサッカーをやっている。
- ・サンフランシスコ空港から、10kmくらいの距離であり、ハイウェイで直結していることから、移動時間は車で30分弱。
- ・フォスターシティ市も含め、アメリカの場合、日本の市と交流を行う場合は、だいたい行政が主体ではなく、一般的な法人、NPO法人のような法人を立ち上げて、そちらがしっかり収支(ほぼ寄付金)を得て、中心となって交流をしていくことになる。

■日系の市議会議員との意見交換内容

※フォスターシティ市の日系市議会議員スティーブ岡本氏(現在は任期満了により一般市民となっている)が、稲城市との姉妹都市提携についてのキーパーソン。

- ・青少年のスポーツの部分に非常に力を入れている。
- ・稲城市は野球のジャイアンツもあり、サッカーのヴェルディあり、日テレベレーザありという中では、その部分の交流もできるのではないか。
- ・ホームステイ先も十分にあるので、まずは、稲城の子どもたちに来てもらい、スポーツ交流、特に野球やサッカーで交流がしたい。
- ・平成27年8月の段階では、母体となるNPOを立ち上げる準備に入った。

■ウェルカムスピーチでの意見交換内容

※視察2日目は、ウェルカムのスピーチを市議会議場で実施してもらった。

- ・フォスターシティ市の教育長(隣のサンマテオと同じ学区になっており、そのサンマテオを含めた学区の教育長)から、フォスターシティ市には小学校3つ、中学校が1つあるので、学校交流ができるのではないかという話があった。
- ・サッカーの女性コーチからは、サッカー交流がしたいという話があった。

■市内にお住いの日本人の方との意見交換内容

- ・フォスターシティ市にいる日本人は、家族ごと移ってきて、日系の企業であったり、向こうの企業に勤める人が多い。
- ・各小学校には、日本人の子供が10人程度いて、中学校は1校になるため、もっと日本人の子は多い。
- ・交流をするのであれば、日本人が間に入るよりは、しっかりネイティブな子と日本人の子たちが交流するのが良い。

- ・子供達を学校に通わせるにしても、市内で過ごすにしても、すごく安全で住みやすい場所である。

■フォスターシティ市のシティマネージャーとの意見交換内容等

※今回訪問した際には、フォスターシティ市のシティマネージャーから、公式に今後お付き合いをしたいと思いますという文書をいただいた。

- ・フォスターシティ市としては、市はあくまでもバックアップをするだけで、交流の主体は市民団体である。
- ・交流を進めて行く市民団体は、これから1年くらい立ち上げるには時間がかかり(※今はそれがストップしている状態)、それが立ち上がって、しっかり交流できるようになれば、市としても応援していく。